

[特集]

香川

～ため池と共に～

古代から開墾が進められ、奈良時代末期にはすでに有数の農業地域であった香川。降雨が少なく、多くの川は短く急勾配で、短時間に瀬戸内海に流れてしまう。

新田開発に伴う水確保のため、狭い地域に数多くのため池が江戸・明治に築造された。今でも農業用水確保においては、ため池への依存度が高い。

そして、古から存在する水管理のシステムが、香川独自の水文化を形成してきた。

ため池と共に暮らしてきた香川の人々の営みと工夫から水の有効利用のヒントを得たい。